

令和7年度第1回秋田県立美術館運営協議会（議事要旨）

- 1 日 時 令和7年6月9日（月） 10:00～12:00
- 2 場 所 秋田県立美術館 1階 レクチャールーム
- 3 出席者 秋田県立美術館運営協議会委員 6名（総数7名、欠席1名）
事務局 4名（生涯学習課2名、公益財団法人平野政吉美術財団2名）

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 公益財団法人平野政吉美術財団業務執行理事（秋田県立美術館長）あいさつ
- (3) 出席者紹介
- (4) 報告
 - ① 令和6年度までの秋田県立美術館運営状況の報告及び説明
 - ② 令和7年度 秋田県立美術館事業の概況について
 - ③ Museum 特別展充実事業と外部評価について
- (5) 協議（意見交換）
 - ① 美術館事業（展覧会・県民ギャラリー）について
 - ② 教育普及事業について
 - ③ 美術館運営、広報について
- (6) その他
- (7) 閉会

5 協議概要（○：協議会委員 ■：事務局）

① 美術館事業について

（ア）展覧会について

- 人気の高い特別展などに訪れた際、混んでいて利用者がゆっくりと作品に向き合えていない印象を持った。展示室の入場者キャパシティはどの程度と考えているか。
- 数値でのキャパシティ設定はないが、休日や大型のクルーズ船が寄港する場合は展示室が込み合う時間帯が生まれる。また、展示室の構造上、作品と利用者の距離が近くなりがちのため、適切な距離で作品を鑑賞するという点でのキャパシティは少ないと考えている。
- 実際に観覧すると良質な展覧会を行っていることは間違いないが、広報時点での認知度がそこまで高くない印象を受ける。特に若年層では展覧会名を挙げても知らない場合が多く、広報の媒体や方法を検討していくべきだと考える。
- 特別展に関してはメディアと協力する機会が多いため、相手方と協議のうえ新しい広報の方法について検討していきたい。

（イ）県民ギャラリーについて

- 県民ギャラリーを例年利用していただいている団体の年齢構成もかなりの高齢化が見られる。だが、それは同時に、長年作品を作り続けてきた方々が多いことから個展での利用を見込めるといってもある。こういった利用を促進したい場合、美術館側からどのような支援があれば利用の検討に繋がると考えるかご意見をいただきたい。
- 良い空間だとは思いますが、例年使用している団体とは別に個展やサークル等での使用を増加させたいとすれば、保有している作品数に比べて会場が広すぎると思う。市内の別の施設ではある程度スペースの広さを選択でき、それに応じた使用料設定もされている。
県民ギャラリーならば半分くらいの広さと料金が設定されていれば使いやすくなると思う。
- 搬出入口が狭く、大型の作品の場合は会場に運び込みづらい。
- 県民ギャラリーの出入口が一つしかないため、会場構成を考えるうえで導線が作りにくい。

- 専用の駐車場がないため、使用者が会期中に会場につく場合、駐車場料金まで負担しなければならないことも少なからず使用を避ける要因になっていると思う。
- 所属する団体で例年使用しているが、個人で使用できると思っていなかった。
- 費用負担は高齢者にとってやはり大きい問題。例えば美術館側で個人や小さい団体同士のマッチングを行っていただければ費用負担も按分されるなど利用促進になるのではないかな。
- 普段から県民ギャラリーを利用していただいている皆様よりのご意見は非常にありがたい。料金設定や構造は、すぐの対応は難しいが個人使用での広報やマッチングについては今後方策を考えてみたいと思う。

② 教育普及事業について

- セカンドスクールはどういった範囲が対象となるのか。また、学校団体を受け入れた場合にその時間帯の展示室内人数が多くなることを考えると、休館日を利用して学校団体を受け入れるといった対応も考えられるのではないかな。
- セカンドスクールの主な利用は小中高となる。県内のみならず、県外からも修学旅行で訪れた場合も受け入れている。
休館日の受け入れについては現状考えておらず、開館中の対応となる。1回のセカンドスクールの利用で3クラス、100名近い生徒を相手にする場合もあるが、この場合は事前に引率の教師と当館学芸員の打合せにより他の来館者も含めてスムーズに利用できるよう調整を行っている。
- ミュージウムコンサート出演者について選定基準はあるか。コンサート等は出演者の横のつながりによって来場する場合も多く、それをきっかけに美術館を知ってもらう事もできる。
- 基準は設けていないが、基本的にテーマに応じた活動をしている県内の方に依頼をしている。
- 音楽と絵画は互いに親和性が高いと思われるので、《秋田の行事》の前で行う演奏会も増やして良いと思う。
- 以前に三吉節を《秋田の行事》の前で披露いただくコンサート開催もしたところ好評であったため、今後も作品と関連付けたものを企画していきたい。

③ 美術館運営、広報について

- 学生は美術館に対して基本的に興味を持っていない。また、彼らの情報媒体はスマートフォンに移行しており、従来のように与えられた沢山の情報から取捨選択をしたりせず、自分の好きな情報にのみ触れるように変化している。こういった状況で美術館の情報にどう触れさせるかは今後の課題であると考える。
- 展覧会を開催している我々からしても、特に若年層の情報媒体が大きく変化したことは感じている。実行委員会を県内メディアと共に立ち上げた場合は協力して広報活動を行うものの、SNS等での発信に関してはそこまで力を入れることができていない状況である。これは専門とする職員が必要になる業務とは考えているが、現状では展示担当者が通常業務と並行して行うため活発に行うには至っていない。
- 例えば広報ボランティアとして学生を募集・起用する案も検討してほしい。
- 建物が立派な反面、気軽に入りづらい印象はやはりある。入ってみると2階のカフェなど素敵な部分が多いのにもったいないと感じる。
- 建物の外からでも見えて「何かやっているのかな？」と興味を持てるような仕掛け作りを昨年の深堀隆介展から行い始めている。気軽に入れる雰囲気づくりを継続していきたい。
- 今回は前年度までの委員が任期満了となり、館長を除いた全員が新たにご就任いただいた協議委員である関係上、はじめに美術館の数年分のデータを一挙に提示することになったにも関わらず、活発な議論をいただけた事は大変ありがたいと思う。
こういった場に関わらずご意見は随時受け付けているので、思いついた時に随時お聞かせいただければ今後の運営に役立てることができるので遠慮なくお願いしたい。

③ Museum 特別展充実事業と外部評価について

■ 現在、特別展は県の政策予算である「ミュージアム機能強化事業」の一環として行っており、多方面からの評価が求められている。そのため、令和4年度から委員の皆様には特別展の外部評価をお願いしている。

詳しくは資料をご覧ください。インターネットのフォームを活用することで、スマートフォンやパソコンから簡単に回答ができるようにしている。ネットの利用が難しい場合は紙媒体を用意することもできるので、遠慮無く話して欲しい。また、不明な点があれば何なりと質問していただきたい。ご協力をお願いする。